

コンパイラ理論 10 Racc その3

櫻井彰人

関数呼び出し

- ◆ 関数呼び出しを可能にしよう
- ◆ といっても、Ruby のトップレベルのメソッドを呼べるようになるだけ
 - 関数定義は先送り。
- ◆ 実は、「Ruby 256倍 無道編」に従っても、Math.expなどは呼べない。
 - 引数が評価されてしまい、未定義！というエラーとなる
- ◆ まずは、Math モジュールをincludeして、exp(3)とかsin(3.14)といった形で使えるようにする。

```
exp: exp '+' exp { result += val[2] }
| exp '-' exp { result -= val[2] }
| exp '*' exp { result *= val[2] }
| exp '/' exp { result /= val[2] }
| exp '^' exp { result **= val[2] }
| '(' exp ')' { result = val[1] }
| '-' exp =UMINUS { result = -val[1] }
| NUMBER
| IDENT      { result = do_varref( val[0] ) }
| IDENT '(' args ')'
{ result = do_funcall( val[0], val[2] ) }

args :
| exp      { result = [] }
| exp      { result = val } # result = [val[0]]
| args ',' exp
{ result.push( val[2] ) }
{ result = val[0].push( val[2] ) }

引数列は、配列に入れる
```

```
inner に追加
def do_funcall(func, args)
  receiver = object.new
  if receiver.respond_to?( func, true ) then
    ;
  elsif args[0] then
    receiver = args.shift ← この0は大文字 呼べるかどうかを調べる
  else
    receiver = nil
  end
  receiver.send( func, *args ) ← もくろみ(第一引数を対象オブジェクトとする)通りにいかない。
  end                                         args のバース時に、変数と思って評価してしまうからである

----- footer                                「最後の引数の直前に * がついている場合、
                                               その引数の値が展開されて 渡されます」
                                               メッセージ送信で、メソッドを起動する
include Math                                Mathモジュールのメソッドを使うための工夫
```

メソッド呼び出し

- ◆ 例えば、Math.exp(1.23)と書きたい。さらに、次も許したい
 - Math.exp(1.23).to_i
 - (Math.exp(1.23)).to_i
 - 2.3.to_i
 - x.to_f
 - モジュール名.メソッド名(引数1,..,引数n)
 - インスタンス名.メソッド名(引数1,..,引数n)
- ◆ 名前の解決(解決しないようにすること)が結構面倒

規則の追加

```
| IDENT '..' IDENT
{ result = do_methodinvoke( val[0], val[2], [] ) } [3]として
| IDENT '..' IDENT '(' args ')'
{ result = do_methodinvoke( val[0], val[2], val[4] ) }
| exp '..' IDENT
{ result = do_methodinvoke( val[0], val[2], [] ) }
| exp '..' IDENT '(' args ')'
{ result = do_methodinvoke( val[0], val[2], val[4] ) }
```

Math.exp(3) のとき、
[3]として
3.1.to_i のとき

前半2ルールを設けたのは、Mathなどの名前が第一のIDENTであるときに、それが評価されないようにするために(expからIDENTが生成されるが、そのときには、do_varrefで値を取り出そうとしてしまう)

この結果、shift/reduce conflicts を起こすが、defaultであるshift優先で解決する

inner への追加

Math等のような名前は、シンボル(文字列の内部表現)で保存している

```
def do_methodinvoke( object, method, args )
  if object.class == Symbol then    Math等の名前が入っ
    receiver = eval(object.id2name)← ているときの取扱い
  else
    receiver = object← 3.5 等の値が入っているとき
  end
  if receiver.respond_to?( method, true ) then
    ;
  else
    receiver = nil ← わざわざエラーを起こすための処置
  end
  if args==[] then* 引数がないときの取扱い
    receiver.send( method )
  else
    receiver.send( method, *args )
  end
end
```

footer を少し変更

```
while true
  puts
  print '? '
  str = gets.chomp!
  break if /q/i =~ str
begin
  puts "#{parser.parse(str)}"
rescue NoMethodError
  puts $!
rescue ArgumentError
  puts $!
rescue ParseError
  puts $!
end
rescue NoMethodError, ArgumentError, ParseError
  print $" , "\n"
```

入っていたほうがよい

練習問題3: 直前結果の参照

- ◆ 変数と関数呼び出しが使えるようにして下さい
- ◆ 直前の結果を参照することができると便利です。%%という特別な変数を用意してください。そして、

```
? Math.exp(3)
= 20.0855369231877

? x=%%*2
= 40.1710738463753

?
```

理解度の確認を兼ねて

- ◆ これまでの機能追加をすべて行ったインターフェリタを作成して下さい。テスト結果を含めて、レポートとして下さい。
 - 来週の講義前に提出して下さい。
- ◆ 電子メールで、sakurai あつと ae どつと keio どつと ac どつと jp に送ってください。
 - ファイル形式は、pdfかMsWordで。

ヒント: 直前結果の参照

```
when /%A%/
  @q.push[$&, $&]

と

| '%' { result = @lastresult}

と

@lastresult = do_parse

をしかるべきところに入れればよい。
(3番目は、「入れる」ではなく「置き換える」です)
```